

イメンダカプセル

－現状と今後の展望－

イメンドの対象となりうる市場

入院化学療法

年間 約80万* 件

外来化学療法

年間 約115万* 件

※平成21年度 第3回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会資料

がん化学療法の件数

年間 約200万件

がん化学療法施行患者が 苦痛と感じる自覚症状の順位

順位	1983年* セロトニン受容体拮抗薬発売前	1995年** セロトニン受容体拮抗薬発売後
1	嘔吐	悪心
2	悪心	脱毛
3	脱毛	嘔吐
4	治療に対する不安	疲労感
5	治療時間の長さ	注射に対する不快感

セロトニン受容体拮抗薬発売後も抗がん剤投与による悪心・嘔吐は、いまだ患者の苦痛度順位のトップ3にランクインされ、コントロールが不十分である。

*Coates A et al. Eur J Cancer Clin Oncol, 19 : 203-208,1983 (一部改変)

**de Boer-Dennert M et al. Br J Cancer, 76 : 1055-1061,1997 (一部改変)

国内の制吐療法の現状

標準的な制吐療法

セロトニン受容体拮抗薬＋ステロイド(デキサメタゾン)

2剤併用が一般的(状況に応じて+ α)



悪心・嘔吐のコントロールが不十分
(特に遅発性の悪心・嘔吐)

イメンド[®]カプセルとは・・・

- 急性期の悪心・嘔吐のみならず既存の薬剤でコントロール不十分であった**遅発性の悪心・嘔吐**に対して優れた有効性をもつ。
- 日本初のニューロキニン1(NK₁)受容体拮抗薬である。
- 海外では既に69カ国で承認されている。(2009年3月時点)
- 世界の主要な制吐療法ガイドラインで推奨されている。
 - 米国臨床腫瘍学会(ASCO)ガイドライン
 - 国際癌支持療法学会(MASCC)ガイドライン
 - 米国国立包括癌ネットワーク(NCCN)ガイドライン など

イメンド口座獲得状況

口座獲得計画	目 標	現 状 (2010年4月末現在)
都道府県がん診療 連携拠点病院	51軒 (22年3月末)	51軒 (100%)
地域がん診療 連携拠点病院	324軒 (22年5月末)	292軒 (90%)
化学療法実施の 300床以上病院	521軒 (22年9月末)	439軒 (84%)
合 計	896軒 (22年9月末)	782軒 (87%)

イメンドカプセルを服用された患者さんの喜びの声

＊この薬を服用するまでの化学療法は本当につらかった。
特にシスプラチンを投与されるとすぐに悪心・嘔吐が起こっていた。
イメンドが効いているのか、ゲップで少しウっときただけで吐き気と
いう程の吐き気は無し

＊いつも通り3日目なら午後からムカムカしてくるのですが、イメンド
が効いているのか、普通に過ごしています。この調子なら来週の月
曜は会社を休まなくても済むような気がします・・・とは言え、イメ
ンドは今日で終了。明日から2日間はいつものゾフランに戻り、こ
れがどう影響するのかは未知数です。どうか、今のいい感じが続き
ますように・・・。

＊新薬(神の薬！と呼びたい)イメンドで吐き気が抑えられて、これ
からは何日も吐かなくて良いからご飯が食べられる！

制吐療法ガイドラインにおけるイメンドの位置付け

催吐リスク	ASCO 2006	NCCN 2009	制吐薬適正使用ガイドライン (日本)5月発行予定
高度 (>90%)	<ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント(イメンド)
中等度 (30-90%)	<p>■ AC療法</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント <p>■ AC以外</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント* 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント(イメンド)

*：特定の患者【カルボプラチン、シスプラチン(50mg/m²未満)、ドキシソルピシン、エピルピシン、イホスファミド、イリノテカン
またはメトトレキサート(250mg/m²以上1000mg/m²未満)によるがん化学療法を受ける患者】の場合

主ながん腫別推定患者数

社内調査

診療科	がん腫	新規患者数	再発患者数
呼吸器	非小細胞肺がん・ 小細胞肺がん	10.5万人	3.2万人
乳腺	乳がん	5万人	1.1万人
消化器	胃がん	11万人	1.8万人
	食道がん(頭頸部)	2.5万人	1.1万人
	大腸がん	14万人	2.8万人
血液	非ホジキンリンパ腫	4.5万人	-
計		47万人	10万人

イメンド 市場育成の考え方

2010年度

2011年度

2012年度

講演会・研究会
学会セミナー企画

制吐療法の実態把握と
ガイドラインの啓蒙

がん専門
看護師・薬剤師の
協力体制

制吐剤の使用実態と
適正使用推進

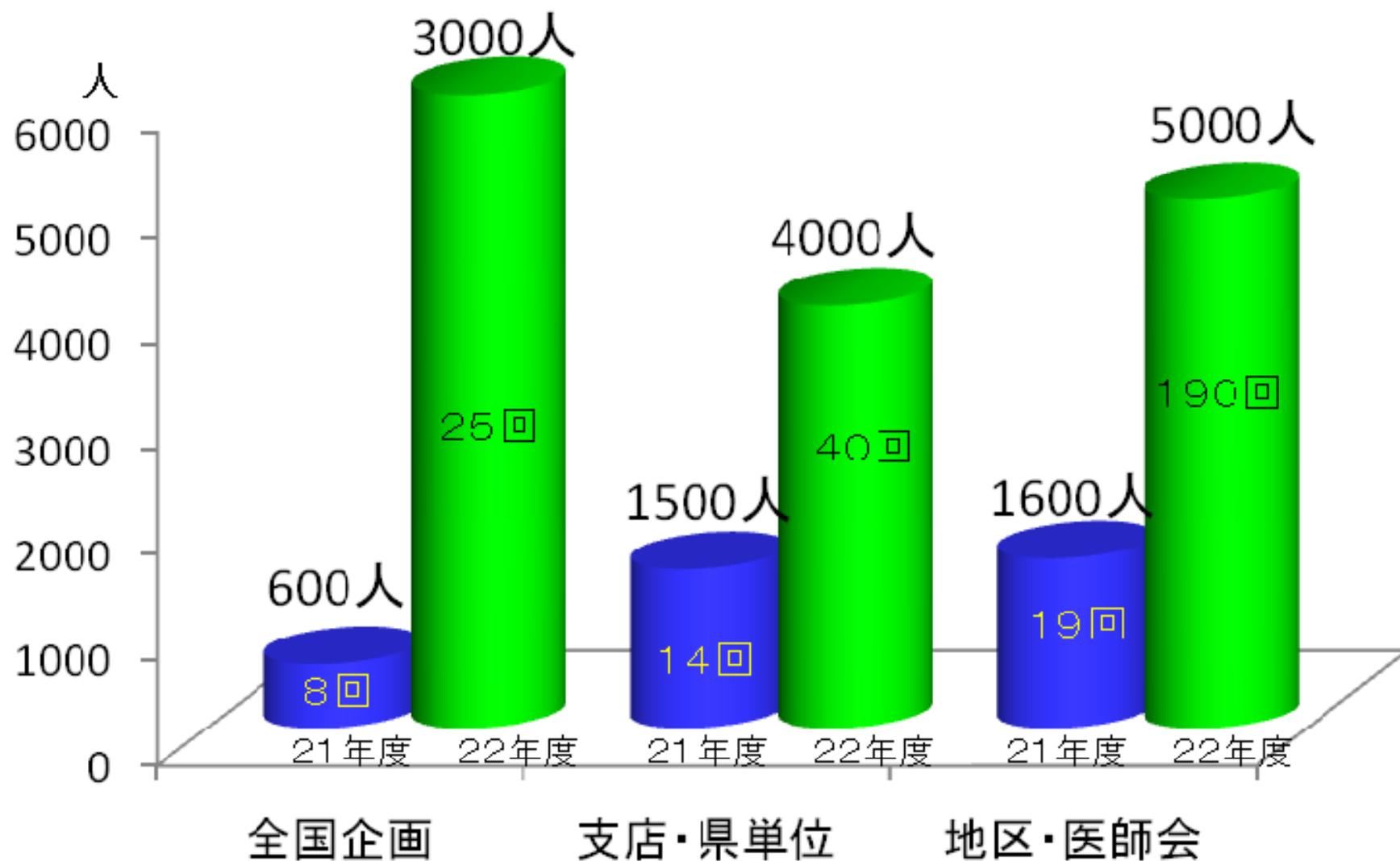
臨床研究テーマの
推進

日本人での
エビデンスの確立

イメント講演会

21年度結果: 33回 3700人

22年度計画: 250回 15000人



イメンドの中期見通し

